



KRICT ニュース

No.1501

平成 27 年 3 月 20 日 発行

カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）について

先日、カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）の院内伝播による集団発生のニュースが伝えられました。米国内で多数の発生が見られていることから、世界的な注意喚起が行われていたところ、国内において 2 件の集団発生のニュースが出ています。厚生労働省は、この件に関連して CRE 感染症を 5 類感染症に指定し、また院内感染防止に関する課長通知を改訂したところです。北九州地域でも CRE の分離が見られております。CRE の蔓延防止のため、地域をあげての対策が必要と思います。保健所を通して行う都道府県知事への届出基準や施設内での蔓延防止に関する注意事項をまとめましたので、情報提供としてお届け致します。

CRE とは

大腸菌、肺炎桿菌などの腸内細菌科の細菌で、メロペネムなどのカルバペネム系抗菌薬に耐性を示すものを言い、種々の原因で感染症に罹りやすい患者に感染症を起こすことが多いものです。健常者にも感染することがあり、感染しても無症状の保菌状態の人もあります。抗菌薬の中で切り札的な役割を持つカルバペネム系薬剤に耐性を示す細菌が蔓延すると大きな脅威となります。わが国でも、CRE の検出が徐々に増加しており、注意が必要です。CRE 感染症、または CRE 感染症による死亡例を診断した場合、7 日以内に届出するように通知が出ています。

CRE 感染症の届出基準について

血液や胸水、腹水などの通常無菌的な検体から、腸内細菌科の細菌が同定された場合、また、喀痰、膿等の通常、無菌的でない検体から同定された場合は、その菌が原因菌と考えられる場合に届け出対象となります。薬剤感受性試験の結果で以下の 1. または 2. を満たす腸内細菌科の菌種に限ります。

微量液体希釈法の場合

1. メロペネム(MEPM)の MIC 値が $>1 \mu\text{g/ml}$ ($2 \mu\text{g/ml}$ 以上)であること
2. イミペネム(IMP)の MIC 値が $>1 \mu\text{g/ml}$ ($2 \mu\text{g/ml}$ 以上)であり、

かつ、セフメタゾール(CMZ)の MIC 値が $>32 \mu\text{g/ml}$ ($64 \mu\text{g/ml}$ 以上)であること
ディスク拡散法 (KB 法) の場合

1. メロペネム(MEPM)の感受性ディスク(KB 法)の阻止円の直径が 22 mm以下であること
2. イミペネム(IMP)の感受性ディスク(KB 法)の阻止円の直径が 22 mm以下であり、
かつ、セフメタゾール(CMZ)の感受性ディスク(KB 法)の阻止円の直径が 12 mm以下であること

施設内感染対策は

- 1)他の薬剤耐性菌に対する時と同様で、標準予防策、接触感染対策を確実に行うようにしてください。また、呼吸器から本菌が分離された患者が、激しく咳をしているような場合、飛沫感染対策も行って下さい。CRE 感染症では、内視鏡にできた傷のため、内視鏡の洗浄・消毒がうまく行かなかったため、病院内で流行した例が報告されています。医療器具や機器の洗浄・消毒時に気を付けてください。
- 2)CRE が検出された患者は個室隔離ないしコホーティングしましょう。また、ドアノブ、ベッド柵、トイレ周囲などの高頻度接触部位は消毒用アルコール、塩素系消毒薬などを使用して消毒しましょう。
- 3)CRE 感染症の治療には、定まった指針やガイドラインはありません。感受性検査の結果を参考にして抗菌薬を投与します。

KRICT では会員の皆様のお役に立つような感染症情報を随時配信します。また、ご質問や施設内ラウンド、施設内講習会への講師派遣などの依頼を募集しています。お気軽にご相談ください。

発行元：NPO 法人 KRICT（北九州地域感染制御チーム）

home-page： <http://kRICT.infoseek.ne.jp/>